

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	土山 耕南
論文担当者	主査 垣淵 正男
	副査 八木 秀司
	副査 都築 建三
学位論文名	Evaluation of alignments that can cause acromion impingement using computed tomography images after reverse total shoulder arthroplasty (リバース型人工肩関節における肩峰インピンジメントの画像評価)
論文審査の結果の要旨	
<p>リバース型人工肩関節は2015年に日本に導入された新しい人工肩関節であり、その良好な成績から国内でも実施件数が増えつつある一方、術後合併症が一定の割合で発生し問題視されている。</p> <p>申請者は、術後に生じる合併症のひとつ、上肢の挙上時に肩甲骨の肩峰と上腕骨の大結節とが衝突し挙上を妨げられる現象である肩峰インピンジメントに注目し、術後CT画像を用いて3次元評価を行って、肩峰インピンジメントの発生要因と臨床成績に与える影響について検討した。</p> <p>兵庫医科大学病院でリバース型人工関節を施行した60例62肩を対象に、肩関節の機能的な回転中心から大結節までの距離(CG)、回転中心から肩峰までの距離(CA)を3次元的に計測し、肩峰インピンジメントのリスク群であるCG&gt;CA群とCG&lt;CA群の2群の臨床成績や合併症の発生率を評価した。</p> <p>その結果、CG&gt;CAであった肩峰インピンジメントのリスク群は有意に屈曲、外転による上肢挙上角度が劣っており、肩峰骨折も多く生じていた。また、性別、身長、インプラントの違いが2群分けに影響を与えており、女性はハイリスク群が多く、身長についてROC曲線を作成するとカットオフ値は152cmであった。CG距離はインプラント間で有意差を認めた。</p> <p>肩峰インピンジメントのリスク群では挙上時に大結節が肩峰下を通過せず、挙上制限の要因の一つになっており、術後肩峰骨折に肩峰インピンジメントによる反復ストレスが影響していることが示唆された。機種ごとにCG距離の程度が異なるため、肩峰インピンジメントを防ぐためには低身長や肩甲骨の骨格などを加味したインプラント選択、術前計画が臨床成績の向上に重要であると考えられた。</p> <p>申請者が本研究によって示した内容は、肩関節機能再建に関する重要な知見であり、学位授与に値すると評価した。</p>	